全建連新聞

社団法人　全国中小建築工事業団体連合会
東京都港区赤坂2丁目2番19号　〒107
アドレスビル内
電話03(586)3381
購読料送料共
半年200円1ヵ年400円

規模/技術/品質を誇る
建設省防火建築材料認定品
三菱石膏ボード
発売元　三菱商事株式会社
製造元　日東石膏株式会社
日東石膏ボード株式会社
日本石膏ボード株式会社

雇用管理の近代化を推進

雇用管理指導者研修会ひらく

こんご全国各地で実施

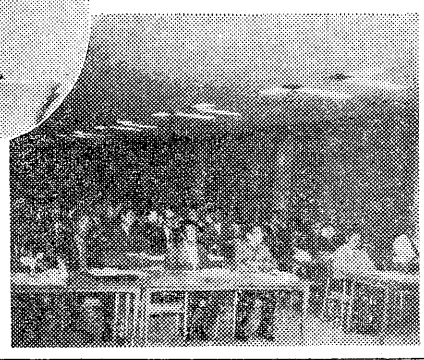
昨年施行された「建設労働者の雇用の改善等に関する法律」で、各事業場に雇用管理責任者を置くことを義務づけられているが、全建連では三月二三、二四日の両日、東京千代田生命本社大会議室に全国各傘下組織の労働担当役職員約七十名を集め雇用管理指導者研修を開催した。今回、所属団体の役職員を研修の対象としたのは、今後都道府県連または単組でとに研修会を実施していくうえで、この指導者を養成するためのもの。

研修は二三日午前十時に開講、まず今井会長から次のとおり挨拶があった。

「建設業における雇用管理は、業界の内包する特性から他産業に比して、その近代化に著しい立遅れが見られます。このことから、昨年建設労働者の雇用改善等に関する法律が施行されましたが、これを契機に業界としてもこの改善に取り組まなければなりません。皆さんは、各組織の労務担当の第一人者ですが、この研修内容をよく吸収され各組織において、一層の活躍をされるよう期待致します。」

ついで早速講義に入り、二日間で約十三時間、熱心に受講した。各テーマと講師は次のとおり①雇用管理総論（建設省労務資材調査室・高田雅夫課長補佐）②募集採用・配置（佐藤工業株式会社労務部長・高橋作一氏）③安全・健康管理（建災防本部・野沢寿之氏）④社会保険（社会保険労務士・新堀英行氏）⑤賃金管理（鴻池組総務副部長・河田公一氏）⑥教育訓練福利厚生（雇用促進事業団総務部長八木克己氏）の経営（マーケッテング経営研究所長・植村尚氏）

二四日の研修終了時に、今井会長より激励の挨拶があった後、各組合の代表に修了証が手渡された。



▲熱心に受講する参加者【円内】挨拶をする今井会長

建築大工の受け付けは10月12日から

52年度技能検定

昭和五十二年度技能検定実施計画が次のとおり決まった。

それによると、例年のとおり左官・瓦は前期、建築大工・型わく施工は後期の日程である。

受検受付けは、前期が五月二日から同十三日まで、後期が十月十二日から同二一日までである。

詳細については各都道府県の技能検定協会が所属組合へ問い合わせ下さい。

（表中▲印は左官、○印は瓦、◆印は建築大工、型わく施工の試験日を表わす。）

項目＼期	前期	後期
実施公示	昭和五二年　四月　五日(火)	昭和五二年　九月二〇日(火)
受検申請書の受付け	昭和五二年　五月　二日(月)から　〃　五月一三日(金)まで	昭和五二年一〇月二二日(水)から　〃　一〇月二一日(金)まで
実技試験 問題公表	昭和五二年　六月一五日(水)	昭和五二年一一月一七日(木)
実技試験 実施	昭和五二年　六月二九日(水)から　九月三〇日(金)まで	昭和五二年一一月三〇日(水)から　昭和五三年　二月二八日(火)まで
学科試験	昭和五二年　九月一一日(日)　〃　九月一八日(日)○▲　九月二五日(日)	昭和五三年　二月一二日(日)　〃　二月一九日(日)◆　二月二六日(日)
合格発表	昭和五二年一〇月一八日(火)	昭和五三年　三月二八日(火)

通産省審議会で さしがね論議

石川評議員会長

このほど東京・芝公園の機械振興会館で通産省の計量行政審議会計量単位臨時専門部会の第二回会合が開かれた。この会合で、さしがねについての意見聴取が行われ当会から石川金造氏（評議員会長）が出席、現場で〝さしがね〟を使用している側の参考人として尺貫系単位の〝さしがね〟の使用実態及びそれに関する意見を述べた。同審議会は、通産大臣の諮問に応じ、計量に関する重要な事項について答申、建議するために設けられたもので、最近尺貫法復活の意見が出たり、とくに住宅建築には従来の便利なさしがねが愛用されているところから、同審議会で調査審議されている。

尺貫目盛のさしがねの製造・販売が禁止されている現在、今なお古くからのさしがねを仕事の道具としている住宅業界にとって、同審議会臨時専門部会の答申が注目される。

総会は5月10日に

四役会議で内定

全建連では、三月二十三日に四役会を開き、昭和五十一年度下半期の事業執行状況を総括するとともに、当面する課題、総会対策等について協議を行った。

総会対策については、総会開催日を五月十日、総会会場を東京近郊（熱海温泉）としたあと、役員改選のとりくみ、総会上程議案の確認を行った。（別記告示のとおり）

特に、総会上程議案については、昭和五十二年度を中小建築事業振興への一つの節としてとらえ、本会事業を積極的に展開する事業計画要綱を再確認し、その裏付けとしての事業予算を現行会費一・五倍案により成案、これにより次期理事会（四月二十六日開催）の決議を経て、総会の承認をもとめていくこととなった。

なお、四役会には今井会長、鳥居、中村（藤）、中村（民）副会長、石井専務理事、中川常務理事が出席した。

積算・資金ぐりのアンケート調査締め切る

本会が二月に配布を行った「基準住宅の積算アンケート」並びに「工事資金ぐりアンケート」の回収を四月一日をもって締切った。同アンケートは、四月中に集計作業を完了、同月中に担当専門委員会において分析される予定である。この分析結果は、五月十日の総会で発表することとしている。

第四回総合告示

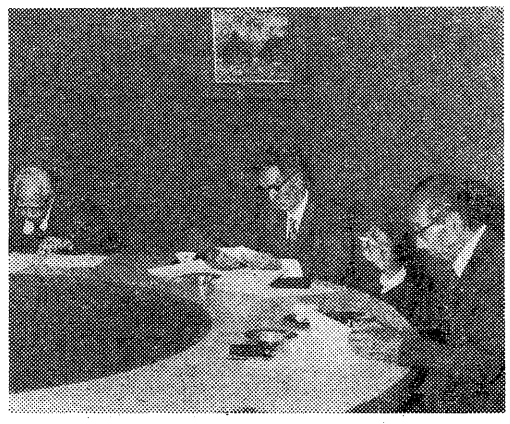
社団法人　全国中小建築工事業団体連合会
会長　今井喜三

第四回定期総会を左記により開催する。

記

〈日時〉昭和52年5月10日　午後一時
〈会場〉熱海市・ホテル「暖海荘」
〈議題〉
①昭和51年度事業報告に関する件
②昭和51年度歳入歳出決算報告に関する件
③昭和51年度監査報告に関する件
④昭和52年度事業計画に関する件
⑤昭和52年度歳入歳出予算案に関する件
⑥役員改選に関する件

石田労働大臣に 雇用保険法の改善を陳情



議案を検討する
（右から今井会長、石井専務、鳥居副会長）

三月二十四日、秋田県連の中村民蔵会長（全建連副会長）は、雇用保険法の改善、とりわけ一人親方のあつかいについて石田労働大臣に陳情するとともに、労働省の望月雇用保険課長と話し合った。

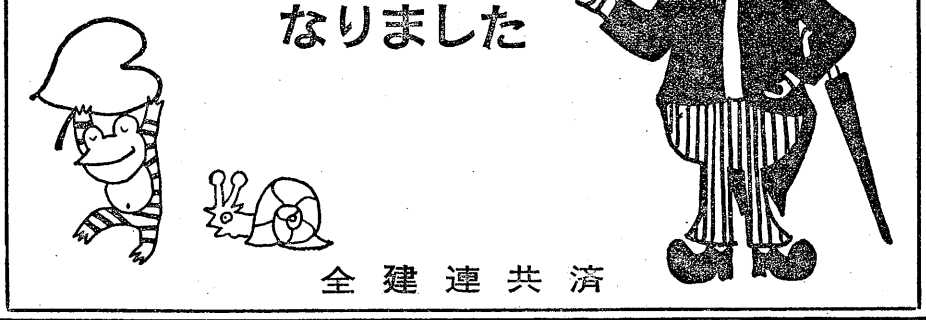
これは地元秋田県連の強い要望にもとづいて行ったもので、二月九日についで二回目。

全建連としても、この問題は単に秋田だけの問題でなく積雪寒冷地全体の問題でもあるので、なんらかの解決をはかるためひきつづき対処していくこととしている。

あれやこれや

桜の花が咲きはじめると本当に春が来たような気がするから不思議である。よく晴れた日の桜はながめているだけで気持ちが充実してくる。

中学の入学式のときに一人前になったようで胸をワクワクさせたことを今でもおぼえているが、そのときに校門の脇に桜の木があったせいかもしれない▼考えてみれば桜ほど日本人に親しまれている花はないと思われる。花見といえば桜の花見であり、日頃無骨な人も風流を解するからおもしろい。淡い紅色の花びらは桜漬け桜湯に使われ、葉は包んで桜餅にする。また桜色を愛でて、桜えび、桜貝、桜紙、桜飯、そして真鯛を「さくら鯛」などと呼ぶ。昔話の「花咲か爺」やワシントンの桜の木の話など訓話もある。桜の美しさが不気味になり「桜の樹の下には屍体が埋まっている」と言った梶井基次郎の作品も有名だ▼桜の歴史ははっきりしないが、室町時代以前は山野のものをながめる程度にすぎず、庭に栽培して鑑賞するようになったのは室町以後だそうである。私たちになじみ深い水戸黄門は桜好きだったとかで、花見の途中で雨にあったが、それも一興だといって終日楽しんだという逸話がある。種類は実に多くヤマザクラ、チョウジザクラ、オオヤマザクラ、ミヤマザクラ、ミネザクラオオシマザクラ、カスミザクラ、マメザクラ、エドヒガン、カンヒザクラと十種類あり、ほかにこれらの交配でできた園芸品種は約三百種もある▼岩波の国語辞典によると、散りぎわがいさぎよいので武士道の象徴ともされた、とある。戦争中は「花は桜木、人は武士」ということばが浸透していたそうだが、一人の人間の一生が花のいのちと同様に考えられてしまうとは、いかに個人というものが無視されていたかよくわかる。花は美しいもの、楽しむべきものであるはずだ。



全建連会員必携の
〝会員証〟と〝バッヂ〟

全建連会員証

◇会員証
メラミン焼付塗装　2,580円

◇銀バッヂ
銀台金張　600円